

エコアクション21

# 環境経営レポート

(対象期間 2018年12月～2019年11月)

2020年1月発行

株式会社 千田精密工業

## 目次

◎ 事業の概要	.....	2
◎ 対象範囲	.....	2
◎ 環境経営方針	.....	3
◎ 実施体制	.....	4
◎ 環境経営目標・実績	.....	5
◎ 環境経営計画・取組み結果と評価・次年度の取組み内容	.....	6
◎ 環境経営中期計画	.....	7
◎ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	.....	8
◎ 代表者による全体評価・見直しの結果	.....	9

## ～事業概要～

### ◎事業者名、代表者名及び所在地

事業者名	株式会社	千田精密工業
代表者名	千田	伏二夫
所在地	本社・前沢工場	岩手県奥州市前沢字五合田19番1
	大槌工場	岩手県上閉伊郡大槌町大槌12地割3番地1字柱内
	東和工場	岩手県花巻市東和町鷹巣堂3区1の2

### ◎環境管理責任者 兼澤正志

連絡先 TEL) 0193-42-2880 FAX) 0193-42-2885  
E-mail [chtsuchi@chidaseimitsu.com](mailto:chtsuchi@chidaseimitsu.com)

### ◎事業内容

- ①半導体製造装置、液晶関連装置及び産業機器関連装置の精密部品の加工
- ②自動車関連特殊部品の加工・製作
- ③射出成形用金型の設計製作、金型部品加工及び保守・保全

### ◎事業規模

株式会社 千田精密工業 社員数123名

### ◎認証登録範囲

全組織・全事業活動

## 環境経営方針

地球環境の保全を経営の最重要課題のひとつと位置付け、全社員で環境保全に配慮した「ものづくり」を展開し、次世代により美しい自然環境を届ける。

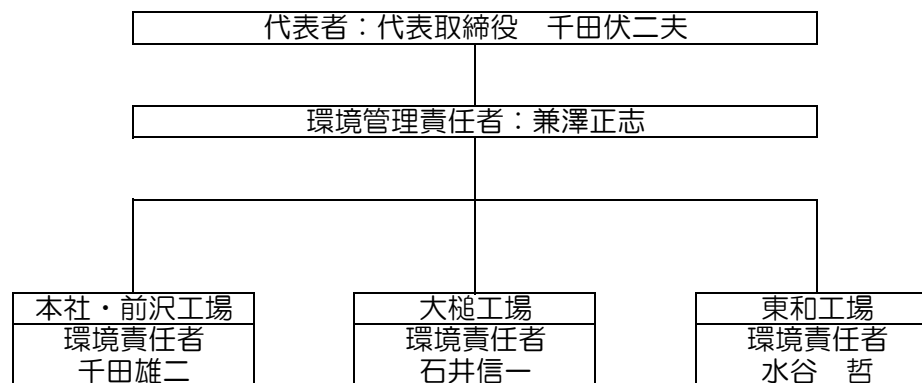
## 環境行動指針

1. エコアクション21に基づき活動し、二酸化炭素・水使用量・廃棄物の排出抑制を行います。
2. 環境関連法規制を遵守します。
3. 不良率の低減に取り組めます。
4. FSW(摩擦攪拌接合)を活かし環境に配慮した製品を作ります。
5. 事務用品等のグリーン購入を推進します。
6. 製品の原材料・製造工程に含まれる化学物質の管理をします。
7. 地域環境活動に積極的に協力します。

2020年1月1日  
株式会社 千田精密工業  
代表取締役 千田伏二夫

## エコアクション21 実施体制

作成日：2020.1.1



### 〈役割・責任・権限〉

役割	担当者	責任・権限
代表者	代表取締役 千田伏二夫	①環境経営方針を制定する。 ②環境管理責任者を任命する。 ③課題とチャンスを明確にする。 ④組織に対する資源の準備（人員・設備・費用など） ⑤代表者による全体の評価・見直しを行う。
環境管理責任者	兼澤正志	①代表者に代わってシステムを構築・運用する。 ②代表者に結果を報告する。 ③環境経営目標・環境経営計画書の作成する。
E A21事務局	兼澤正志	①環境関連文書類の作成・管理。 ②各種データ収集、環境経営レポートの作成。 ③外部からの苦情などの受付・対応及び記録。
環境責任者	千田雄二 石井信一 水谷 哲	①省資源、省エネ、節水を奨励実施する。 ②必要な教育訓練を実施し目標達成への取組みを推進する。 ③各工場間と連携し取組み状況を確認し、是正処置・改善を行い公害防止、緊急事態への予防処置を実施する。 環境管理責任者・代表者への報告、承認を受け速やかに実施する。
全社員	—	①環境経営方針の理解と、環境への取組みの重要性を認識する。 ②積極的に環境経営活動へ参画する。 ③自主的に地域の自然保護活動に参加する。

【環境経営目標 実績値】

	取組項目	単位	2016年(2015年度)		2018年度(2018年12月~2019年11月)			
			基準	目標	実績	評価		
						○・△・×		
①	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素)	購入電力	kg-CO <sub>2</sub>	31,075,255	1%削減	30,764,502	1,446,266	○
		化石燃料	kg-CO <sub>2</sub>	745,022	1%削減	737,572	26,847	○
	水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	1,266	1%削減	1,253	1,468	×
	廃棄物の削減	廃棄物総排出量	t	153	1%削減	151	123	○
		可燃ごみ削減	t	4.7	継続	4.7	7.2	×
②	法令違反・行政指導回数	件	0件	継続	0件	0件	○	
③	不良率の低減(各工場及び全体不良率)	%	0.30%以下	継続	0.30%以下	0.30%以下	○	
④	◎環境配慮製品(FSW加工品)の拡大	売上増による占有率	17%以上	継続	17%以上	36%	○	
⑤	グリーン購入	%	20%以上/購入品目	継続	20%以上/購入品目	26%	○	
⑦	地域活動(地域清掃活動・学校関係インターンシップ受入れ活動等)	回	2回	継続	2回	2回	○	

「評価基準」 目標値/実績値 1±0.5 (○) 0.90~0.95 (△) 0.90以下 (×) として原因追及を図る。

評価コメント

購入電力：東和工場の建屋修繕(屋根二重構造)とシャッター室内側にシートカーテン取付けにより、室内の温度管理の改善に大きくつながった。  
 化石燃料：取引先への納品業務を3工場、運送会社に外部委託により化石燃料費の大幅減に繋がる。  
 上水：目標未達ではあるが、生産に必要な資源投入である。  
 可燃ごみ：環境改善活動における、工場不要物の廃棄に伴う増加。

【エコアクション報告 実績値】

	取組項目	単位	2016年(2015年度)		2017年(2016年度)	2018年(2017年度)	2019年(2018年度)	
			基準	目標	中期目標			
					2017年(2016年度)	2018年(2017年度)	2019年(2018年度)	
①	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素)	購入電力	kg-CO <sub>2</sub>	31,075,255	1%削減	異常値の検出	異常値の検出	異常値の検出
		化石燃料	kg-CO <sub>2</sub>	745,022	1%削減	異常値の検出	異常値の検出	異常値の検出
	水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	1,266	1%削減	異常値の検出	異常値の検出	異常値の検出
	廃棄物の削減	廃棄物総排出量	t	153	1%削減	異常値の検出	異常値の検出	異常値の検出
		可燃ごみ削減	t	4.7	継続	異常値の検出	異常値の検出	異常値の検出
②	法令違反・行政指導回数	件	0件	継続	0件	0件	0件	
③	不良率の低減(各工場及び全体不良率)	%	0.30%以下	継続	0.30%以下	0.30%以下	0.30%以下	
④	◎環境配慮製品(FSW加工品)の拡大	%/売上	17%以上	継続	維持	維持	維持	
⑤	グリーン購入	%	20%以上/購入品目	継続	維持	維持	維持	
⑦	地域活動(エコキャップ・カレンダー寄付活動等)	回	2回	継続	2回	2回	2回	

【環境経営計画・取組み・結果及び次年度の取組み内容】

環境経営活動項目	評価	結果	次年度の主な取組み内容
<b>(1) 省エネルギーの推進 (CO<sub>2</sub>の削減)</b>			
①エアコンの温度管理・運転抑制の徹底	・ 通年	○	・ 継続 ・ 継続 ・ 継続 ・ 工場内の環境改善活動の推進する。
②エアコンフィルターの定期清掃の実施	・ 各工場での定期清掃の実施 (8月・12月)		
③自動販売機の省電力・タイマー運転等の実施	・ 通年		
④照明・OA機器等の節電	・ 3工場照明LEDに変更工事 大槌・東和：工場内のほぼ8割の照明器具について変更完了	○	・ 各工場内照明LEDへ交換 (継続) の随時検討する。
⑤TV会議システム導入	・ 3工場間での情報共有。日々3工場間での、合同会議の実施による情報共有が図られている。	○	・ システムの有効活用の継続する。
⑥社有車エコ運転の徹底 社有車の見直し (エコカー導入)	・ 運行記録表への記載による意識付け (通年) ・ 社有車エコカー入替え導入実施 ・ 社有車へのドライブレコーダー取付けによる危険運転の抑制	○	・ 継続 ・ 社有車運転時の、エコドライブの推奨・継続する。 ・ 安全運転による、エコドライブの意識付け。
⑦社有車燃料 (ガソリン・軽油) の削減	・ 納品業務を運送業者へ外部委託 (納品業務自体の見直し検討による、車両維持や人件費などの総合的判断)	○	・ 外部委託した納品業務先の3工場間運行ルートの効率化を図る。 ・ エコカー社有車入替えし増検討
<b>(2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進</b>			
①段ボール等のリサイクル分別の徹底	・ 分別活動の徹底	○	・ 継続
②コピー用紙の使用量削減 (裏紙使用の徹底) OA機器の入替え及び、システム見直し検討	・ コピー用紙の裏紙使用の継続 ・ 生産管理システムによる作業効率向上と情報共有化 (3工場間含め)	○	・ 継続 ・ パソコン入替えサポート終了PC対応。
③工場間での加工方法の検討 (不良率の低減)	・ 工場間での (技術等) 交流を頻繁に行う。 ・ 各工場、委員会活動・報告による情報共有を図る	○	・ 工場間での技術交流を行い、TV会議システムの有効活用等情報の共有化を継続する ・ 工程毎での3工場合同勉強会の実施。 ・ 作業効率化を図る為、CAD/CAMから機械加工プログラムの送受信の仕組み見直し。
<b>(3) 水使用量の削減</b>			
①節水表示の実施と節水作業の徹底	・ 切削液の管理項目を定め、日常点検として管理、活動を実施。	○	・ 継続
<b>(4) 環境配慮製品の普及活動</b>			
①FSW (摩擦攪拌接合) 加工品の拡大 首都圏等で開催される企業展へ出展 会社ホームページによる、情報発信	・ FSW技術の認知度の向上 ・ 首都圏開催の展示会へ参加し、企業PRを行う。 ・ 会社ホームページを通じて、情報の発信を行う。	○	・ 継続
<b>(5) 化学物質の削減</b>			
①新規化学物質使用の確認	・ 定期的に客先からの調査依頼に対応・実施。 ・ SDSシートにて、有害性の確認。	○	・ 継続 ・ 継続

【環境経営中期計画】

\*2018年度実績値を基準とし、3年中期計画を設定。取組項目①と②に関しては基準を維持しながら、実績値の異常値の確認判断を実施する。

\*2018年度実績値に二酸化炭素排出係数(0.523kg-CO<sub>2</sub>/kwh)を用いて再計算し2020年から2022年までの3年間の中期計画を設定。

	取組項目		単位	2019年(2018年度)		2020年(2019年度)	2021年(2020年度)	2022年(2021年度)
				基準	目標	中期目標		
①	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素)	購入電力	kg-CO <sub>2</sub>	1,446,266	継続	1,446,266	1,446,266	1,446,266
		化石燃料	kg-CO <sub>2</sub>	26,847	継続	26,847	26,847	26,847
	水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	1,468	継続	1,468	1,468	1,468
	廃棄物の削減	廃棄物総排出量	t	123	継続	123	123	123
		可燃ごみ削減	t	7.2	継続	7.2	7.2	7.2
②	法令違反・行政指導回数		件	0件	継続	0件	0件	0件
③	不良率の低減(各工場及び全体不良率)		%	0.30%以下	継続	0.30%以下	0.30%以下	0.30%以下
④	⑥環境配慮製品(FSW加工品)の拡大		売上増による占有率	36%	継続	36%以上	36%以上	36%以上
⑤	グリーン購入		%	26%	継続	26%以上/購入品目	26%以上/購入品目	26%以上/購入品目
⑦	地域活動(地域清掃活動・学校関係インターンシップ受入れ活動等)		回	2回	継続	2回以上	3回以上	2回以上

\*二酸化炭素排出係数は、東北電力調整後排出係数 0.523kg-CO<sub>2</sub>/kwh (H30.12.27 環境省経済産業省公表の数値)

\*年(年度)表記は、弊社事業年度12月-11月を示す。



●環境関連法規類の取り纏め表及び、遵守の確認

当社、2018年度における環境関連の適用法令に基づく遵守状況の確認結果は、以下の通りであった。

関連法令	該当する活動	遵守状況
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任	適合
消防法	危険物貯蔵の届出	-
	消防用設備の点検（外部委託）	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の適正保管	適合
	産業廃棄物の適正処分 （運搬・処理、外部委託）	適合
	マニフェスト管理	適合
化学物質排出把握管理促進法（PRTR制度）	購入・保管量の管理	実施
フロン排出抑制法	自主点検（3ヶ月毎）と業者による点検（3年毎）	実施
水銀廃棄物の適正処理	産業廃棄物の適正処分	適合
騒音規制法	規制区域の該当	-
	特定施設の該当	-
振動規制法	規制区域の該当	-
	特定施設の該当	-
浄化槽法	浄化槽設備の点検（外部委託）	適合
奥州市環境基本条例	環境負荷の低減及び環境保全	適合
花巻市環境基本条例		適合
大槌町環境基本条例		適合

\*（-非該当）

上記の通り、環境に関連する法令について確認した結果、不適合は有りませんでした。  
又、近隣・行政等の利害関係者より環境に関する苦情、訴訟はありませんでした。

## 【代表者による評価・見直し結果】

### （評価）

工場環境整備に対して、今まで行ってきた設備投資の効果が実績として現れている。特に、東和工場での建屋修繕屋根二重構造や各工場へのシャッターシートカーテン取付け工場内室温保持など様々な部分で環境整備を行なう事が出来ました。更には新たな機械設備の導入も行い、生産活動の強化・効率化を図る投資も行いました。今後も設備を活かしながら、仕事の改善と工場内の環境改善を進めて行く様にして下さい。今年度を振り返り、以下の見直し結果となります。

### （見直し結果）

- ① 環境経営方針の見直し⇒不要。
- ② 目標値の見直し要否⇒今年度実績を踏まえ中期目標を立案。
- ③ 実施体制の見直し⇒不要
- ④ 資源の投入⇒必要に応じ判断致します。
  - ・ 機械設備・人員・工場建屋修繕等
  - ・ 工場改善活動における必要な資源の投資

## 【次年度の取り組み内容】

人財を育成し、強固な技術集団を創成する  
その為に以下の事を意識した行動をして下さい。

- ① 社員教育の充実と3工場の技術交流
- ② 失敗を恐れず何事にも勇気と創造力をもって挑戦する
- ③ 生産管理システムの有効活用で作業効率向上を目指す

各工場間の協力連携を強め、作業改善などの推進を図りながら、生産活動＝環境活動への繋がりを意識して進めて下さい。

必要な資源の投入は状況に応じて随時検討・判断いたします。